

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 楠橋 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

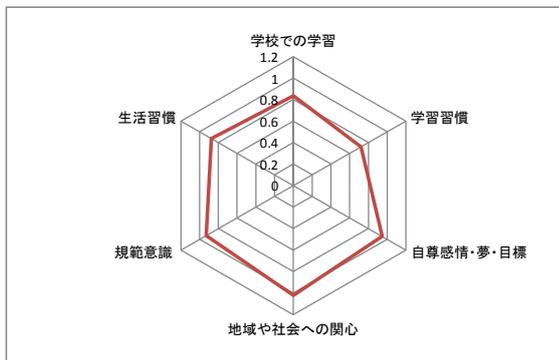
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成を考えて書くことに課題がある。 ・日常使われている慣用句の意味を理解する問題、文の中で正しい漢字を使う問題は、正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・日常使われている慣用句の意味を理解する問題、文の中で正しい漢字を使う問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・物語を書くときの構成の工夫や、相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題は、正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・設問によっては、全国平均正答率を上回る設問もあったが、全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・計画的に話し合うために司会の役割について捉える問題や目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む問題は、正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を下回っていた。 ・重さや長さについての任意単位による測定についての理解など、「量と測定」領域に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・角の大きさが、何度であるか選ぶ問題は、正答率がとても高かった。	
	努力が必要な問題	・小数の除法の問題場面において、2つの数量の関係を数直線に表す問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。特に、日常生活の事象と関連付けた問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・九九の表から規則性を見付け、条件を変更しても同じような数量関係が成り立つことを説明する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・図形の問題で条件に合う図形を見いだしたり、角の大きさを記述で説明する問題は、正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていた。特に観察や実験技能の理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・食塩を水に溶かした時の全体の重さを選ぶ問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・回路を流れる電流の向きと大きさについての問題や、ろ過実験の定説な操作方法を身に付けているかどうかを見る問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識では、昨年度とほぼ同程度なので、引き続き指導する。 ・生活習慣では、寝る時間が決まっておらず遅く寝たり、朝食を毎日食べていなかったりする児童が多い傾向がある。 ・学校の学習では、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることや課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことについては、まだ課題が残る。 ・学習習慣は、宿題は、よくできているが、自分で計画を立てて勉強をすることや、家庭学習の時間が確保できていない児童が多い。 ・地域の行事に参加している児童が多く、昨年度を大きく上回っている。 ・将来の夢や希望をもっている児童が多いが、自分のよいところに気付いていない児童が昨年に引き続き多いのは課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中にペアやグループで話し合う活動や書く活動を取り入れ、1時間を通して子どもの思考が持続していくような授業に取り組む。 ・くすの子タイムⅠ、くすの子タイムⅡの時間を設定し、落ち着いた環境で学習する習慣を付けることや、基礎学力の定着を図り自ら学ぼうとする力が付くよう指導する。学習の足あとを残し、できるようになっていることを実感させる。 ・国語科では書く力を育成するために、視写を週2回、くすの子タイムの時間に設定し、文章を正しく書けるように指導する。また、伝えたいことが明確になる文章が書けるように、取材や選材を指導していく。取材がうまくいくように資料となる本などを学級文庫や学年棚に置き、いつでも学習で使えるようにする。 ・算数科では、学校独自の『算数学習のすすめ方』<問題をとくかぎ>を使い、自分の考えをもてるように指導する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・宿題では、学年で内容や量をそろえ漢字や計算、音読の基礎基本が定着するようにする。 ・児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう、学級活動の中で自分の家庭学習のめあてをもたせ計画を立てさせる。 ・家の人と学校の出来事について話すことが少ない児童が多いので、学校便り等で保護者に呼びかける。
--